



船越神社(市場)

①神功皇后が三韓征伐の往路、早島を迂回して進むには時間が掛かるので、島民が船を担いで松尾坂を越え、無事出発する事ができた功績により、船を担いだ島民に船越の名を授けた。

②早島が未だ瀬戸内に浮かぶ小島であった頃、吉備津彦命が四道將軍の一人として西道(吉備国)に派遣されその行幸のとき、命の乗った船が妹尾村のあたりで干潟に隔てられ着岸困難となった。

その時、島民の大河という者が力を尽くし、

⑨荒神社(塩津)
 鎮座地 都窪郡早島町早島一二七
 境内地 三九八㎡
 祭神 火之迦具土神
 荒神社は昭和三十八年一月鶴崎神社の飛び地境内神社として合併された。
 塩津の安原備中守供養塔上手に土塀を巡らせて祀られていたが、老朽化により荒廃し、社殿も倒壊していたが、平成十二年十二月塩津氏の有志により社殿を再建した。旧社殿の御神体

無事着岸する事ができた。
 命は大河を呼んで「船越」の別称を授けた。
 その後、大河は船越と改姓した。船越の死後、その子孫は船越大神と篤く崇敬して社殿を建立し、手厚く祀った。
 寛永五年(1628)に早島町市場松尾に社殿を移築。昭和八年社殿改築。平成十一年四月鶴崎神社の飛び地境内神社として合併された。
 平成十二年、県道早島吉備線の拡幅工事に伴い、神社の移転を余儀なくされ、同二月十日地鎮祭、同五月二十三日本殿遷座祭、同五月二十五日竣工奉祝祭を行い、境内地を県道東側斜面に移転して社殿を改築した。
 社殿改築に合わせて社号標、手水鉢、幟柱一对を新設した。
 五月二十五日(春祭)、十月二十五日(秋祭)には、船越一族が参集し、祭典を執り行っている。



荒神社(塩津)

を丁重に安置して、御鎮座並びに竣工奉告祭を執行し、神社の改築に合わせて本殿周囲の塀を復元し、由緒板を新設した。
 また、境内整備として境内を覆っていた竹を伐採し、入り口には多数の水仙を植えた。



境内入り口で花を咲かす水仙



稲荷神社(無津)

⑥稲荷神社(無津)
 鎮座地 都窪郡早島町早島五四四
 境内地 七〇㎡
 祭神 宇迦之御魂神
 祭神の宇迦之御魂神は食物を司る神で五穀豊穡の神でもある。
 古事記では宇迦之御魂神と記し、日本書紀では倉稲魂神と記されている。

⑦荒神社(市場・真磯)
 鎮座地 都窪郡早島町早島八二五―二八二四―三
 境内地 二一七、一五㎡
 祭神 火之迦具土神
 荒神社は昭和三十八年一月鶴崎神社の飛び地境内神社として合併された。
 また、以前は真磯団地の丘陵に祀られていたが、同団地の造成に伴い、昭和四十五年五月現在の地に流れ造り銅板葺きの社殿を改築して移された。
 神社移転の際に、八二五番地から〇、一五㎡を分筆して八二五―二となり、更に八二四番地から二一七㎡を分筆して八二四―三となった。
 祭典は他の荒神社同様十月二十七日であったが、現在は十月第四日曜日に、真磯団地、市場松尾上、市場松尾下組合の氏子により執行されている。

稲荷神社は無津の大きなクヌギの木に囲まれた林の中に祀られている。昭和三十八年一月鶴崎神社の飛び地境内神社として合併された。
 社殿が老朽化した為にコンクリートブロックで作られた覆殿の中に祠を安置していたが、平成十八年八月荒神社本殿の改築時に宮形を新調した。

⑧船越神社(市場)
 鎮座地 都窪郡早島町早島二一五―五
 境内地 一五八、五五㎡
 祭神 船越大神
 船越神社は、船越大神を祭神として祀り、船越一族二十一戸の氏神として守られている。
 船越神社には次の二通りの縁起が伝わっている。



荒神社(真磯・市場)